

あなたの声を“カタチ”にします！

# 勝山ひでお通信

Vol. **33**

## ごあいさつ



日頃より皆様には、温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

今、長引くコロナ禍、ロシアによるウクライナ侵略、燃油・食料品の物価高騰や少子高齢化、気候変動が原因とされる災害の頻発化など、政治が対応しなくてはならない課題が山積しています。

このような未曾有の難局だからこそ「大衆とともに」との公明党の立党精神を赤々と燃やし「全国3000人の議員のネットワーク力」や「小さな声を聞く力」など公明党の強みをフル回転させ、皆さんの声をお聞きし、その声を政治に届け、皆さんに喜んでいただける政策の実現に努めて参ります。

この難局を乗り越え、皆さんが“安心”と“希望”の持てる社会を全力で作って参る決意です。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 荻原市長に地方創生臨時交付金の創設を受けた重点要望書を提出

国は4月26日、コロナ禍における「原油価格・物価高騰など総合緊急対策」を決定し、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が拡充されました。これを受け、5月25日公明党長野市議員団は「地方創生臨時交付金の創設を受けた重点要望書」を荻原市長に提出させて頂き、「困窮者等生活者の負担軽減に資する生活支援事業」、「事業者の負担軽減に資する産業支援」について緊急要望させて頂きました。具体的な要望は以下の通りです。

- 給食費等の負担軽減など子育て世帯に対する支援
- 生活困窮者や低所得者に対する給付金の支給
- ひとり親家庭をはじめとした子育て世帯、家計が急変した学生・生徒に対する給付金の支給
- 地域経済の活性化と生活者支援を目的としたプレミアム商品券の発行
- 鉄道・バス・タクシーなど地域公共交通の支援
- 農林業者等に対する経営支援
- 宿泊事業者・旅行業者・観光業者に対する経営支援
- 飲食業、理・美容業、クリーニング業、ホテル・旅館業などの事業者に対する経営支援



発行： 勝山ひでお

TEL/FAX 026-296-5328



長野市下駒沢2253-1

E-mail: katsuyama@nkomei.com

# 6月議会の個人質問

6月定例議会でも個人質問に立たせていただきました。主な質問項目は、「带状疱疹ワクチン接種について」「HSCへの理解と配慮について」「青い目の人形(友情人形)について」の3項目です。主な質問と答弁の主旨は以下の通りです。



## 带状疱疹ワクチン接種について



**勝山** 带状疱疹の症状はピリピリ、チクチクと刺すような痛みがあり、夜も寝れないほど激しい痛みにも襲われる場合があります。带状疱疹ワクチンは厚労省により、2016年に50歳以上の者に対する予防として効能・効果が追記された。しかし、ワクチン接種は高額な費用が掛かる。市民の健康を守るという観点から、带状疱疹ワクチン接種に助成をすべきと考えるが。

**保健所部長** 带状疱疹ワクチン接種費用に対する助成については、国の動向を注視しながら慎重に検討する。

## HSCへの理解と配慮について

**勝山** HSCの児童・生徒が安心して学校生活が送れるよう、保護者が安心して子育てができるよう、学校現場でのHSCに関する情報の周知と教員の質の向上や教育環境の改善が重要と考えるが。

**教育次長** 不登校の児童・生徒の中に、HSCの気質を持ったお子さんがいることを承知している。学校現場においても、学級担任を含め、全教職員がHSCの正しい理解を持って子供たちへの適切な配慮ができるよう、2年前から研修を行っている。今後も教職員の研修等を通して情報共有を行うとともに、児童・生徒の正しい理解及び適切な配慮につながるよう努める。



HSCとは・・・。

「生まれつき非常に感受性が強く、敏感な気質を持った子ども」という意味で、Highly Sensitive Childの頭文字を取ってHSCと言います。HSCは病気や障害ではなく、生まれつき持っている気質や性格の一つ。HSCは新しい概念で一般的には理解が広まっていないが、5人に1人はHSCと言われています。

## 青い目の人形（友情人形）について



**勝山** 先月、長野市出身の千葉市にお住まいの方から、青い目の人形が長野市立博物館に寄贈されました。ロシアによるウクライナ侵攻など平和を脅かすニュースが連日流れる中、平和の尊さを改めて教えてくれる貴重な資料だと思います。今日まで大切に保管されていた経緯などを調査し、企画展など積極的な活用をお願いしたい。

**教育次長** 今回ご寄贈頂いた人形は来歴など現在調査を行っている最中。調査が済み詳細が明らかになったら、今後の活用について検討したい。

青い目の人形(友情人形)とは・・・。

1927年日米間の政治的緊張が高まる中、アメリカの宣教師グーリック博士が将来の日米親善友好を育てたいとの思いから日本に12,739体の青い目の人形を贈る事業を行ったもの。